今月の読み物

早くも年末

株式会社榎戸材木店
会長　榎戸正人

ついこの前、あけましておめでとうございますと挨拶したと思ったら、あっという間に師走。し忘れたことがないか思い返し、反省するから「しわす」というのだと聞いたことがありますが、し忘れるも何も、何をするかを考える間もなく１年が過ぎてしまいました。

昨年は「来年は本格的に本を書く！」と宣言したのですが、年々、目が悪くなりパソコンに向かって文章を書くのがつらくなった……結局、体力の衰えを考えずに気持ちだけ前に進もうと思っても無理で、つまずいてコケてしまうのだと実感させられました。まず、出来ることと出来ないことを考えなくては……

自分で出来ることに限界があるなら、人にやってもらうのが手っ取り早い。夢や希望を金で買うのは気が引けますが、何もせずに１年が過ぎるよりも、本当にやりたいこと、やれることが見つかるまでの「つなぎ」ということで……

ということで、とりあえず来年はラオスに中学校の校舎を１棟、寄付することにしました。なぜラオスにこだわるのかというと、当社が以前、ラオスヒノキを扱っていたこともありますが、日本政府も企業もラオスという国の地政学的重要性に気が付いていないからです。タイやベトナム、マレーシア、インドネシア、バングラディシュなどの東南アジア諸国が経済発展し進出する日本企業も多いのに、豊かな天然資源を持ちながらラオスは取り残されています。なぜか？内陸で海に面していないからです。

原材料を輸入するにも、天然資源や工業化して出来た製品を輸出するにも、海に面しておらず港がないというのは致命的なハンデキャップです。どの国も目を向けない中で、唯一、積極的な投資をして取り込もうとしている国がある……そう、中国です。国境を接する中国はラオスを経由してマレーシアやカンボジア、タイまで鉄道や高速道路を造ろうとしています。完成すれば、トラブルの多い東シナ海、南シナ海を通らずに中国製品を輸出し、原材料を輸入できます。アメリカなどが高性能半導体などの中国向け輸出を禁止しようとしても、これはラオス向けですということにして抜け穴にも利用できます。

ラオスが中国の手に落ちることを避ける唯一の方法は、親日国にすること。そのためには中国びいきに対抗できるだけの日本びいきの国民を増やさなくてはなりません。学校を造り、中学生、高校生への学費の支援をしていけば、優秀な学生の中には日本の大学に留学し、やがてラオスの政治、経済を担う人も出てくれるかもしれません。

中国が他国を支援するのは、その国のことを考えてではなく、あくまでも自国、中国の利益しか頭にありません。これは植民地主義で、中国はアフリカ諸国まで植民地化しようとしています。その点、日本の援助は相手のことを第一に考え、その国が豊かになり幸せになってくれれば、やがては日本のためになるという、世にも稀な考え方の国です。かつて、東南アジアを植民地化しようとしたことの反省なのかもしれませんが……だから私は余生をラオス支援に捧げることにしました。これなら体力が衰えても資金力さえあれば出来ます。そのための資金を貯めるのが、毎年の目標です。悩む必要もなく、楽で良いな！